

インタビュー3

産業観光プロジェクト

どのような取り組みをされるのですか

「体験型」をキーワードとした産業観光という視点から、現在幅広い調査を行っています。その調査は多岐にわたり、養護学校に向けての「養護学校の知多半島フィールドワーク調査」、「旅行会社における知多半島観光の実態調査」、知多半島の企業に向けての企業の産業観光調査、知多半島の自治体に向けての産業観光調査、地域住民の観光調査、中学校のフィールドワーク、障害者等の施設に向けての調査を順次行っています。今回のプロジェクトは3か年計画で進めており、今年度と来年度の初めあたりまでは調査がベースとなっています。

本学美浜キャンパスのある美浜町で、「美浜学」という地域学を立ち上げ、そこに体験型の観光も取り入れて実践してきました。またゼミなどでも体験型の観光を調査してきました。今回の学生の地域参加による現代GPプログラムにおいては、上記の7つの調査を通して、知多半島という地域の良さや課題を学生と一緒に発見し、農漁業などの地域の産業などを活かした体験型の観光をどのようにして展開していくのかを考えていこうとしています。社会福祉学部にも所属する教員で、教職や生涯学習を担当する立場から、養護学校などの子供たちが、地域でどのように体験し、学んでいくのかということに重点をあてていきたいと考えています。また、海に囲まれた知多半島で海をどう活かすかという視点を重視しています。

学生たちに学んでほしいこと

一番の思いは、学生たちに、今回のプロジェクトを通して、地域をしっかりと自分の目でみつめてもらいたいということです。調査等を通して地域の課題を明確にし、どのようにしたら地域が住みやすくなるのか、地域で学びやすくなるのか、地域で仕事がしやすくなるのか、などを考えてもらいたいと思います。ハウツーの面では、技術的な調査の手法を実践的に身につけてもらいたいですね。そして、学生が主体的に取り組み、学んでほしいと思っています。

上記で示したアンケート調査をするにあたっては、その調査内容はもちろんのこと、発送先をどのような企業にしたら良いかという段階から学生が自ら行っています。学生が知多半島の商工会などに説明に行き、相談しながら発送先企業の絞り込みを行いました。また、知多半島の自治体への聞き取り調査など自主的に似行っています。

学生たちにとって、なかなか学外の人と話す機会は少なく、今回、地域の商工会や自治体等の方々と学生が折衝していくなかで、より積極的になり、成長していく姿が数多く見られています。

大学生の時は、社会に目を向け、人間的に非常に成長する時期です。現代GPのプロジェクトを有効に活用して、成長し、



社会福祉学部 磯部 作 教授

プロフィール

1949年生まれ。人文地理学、社会科教育論、特に地域漁業と海域利用やツーリズム、沿岸域の開発・環境問題と地域づくり、地理教育におけるそれらの扱い方を専門分野とする。共著として「地理教育をつくる50のポイント」、「環境問題の現場から」、「転換期の地域づくり」など。

暮らしやすい地域社会をつくる主体になってもらいたいと考えています。

地域への貢献について

今回のプロジェクトを通して、知多半島という地域の良さや課題を、地域の皆さんとともに学びあっていきたいと思えます。とりわけ、子ども達に伝えていくべきものは何かということ、学生と一緒に見つけ出していくことを考えています。

日常的に地域づくりを担っている中心は地域に居住する住民の方々であり、地域づくりの主人公は居住する住民の方々です。大学も地域に立地する以上その一員として、住民の方々とともに、地域の良さや課題を調査研究することが、大学として地域に貢献させていただく一つと考えています。また、調査するにあたってご協力頂いている学校や自治体、商工会、企業、施設などと、プロジェクトの調査研究成果を共有していくことで、住民と自治体などが協力して行う地域づくりに、大学として積極的に寄与していくことができればと思います。なお、体験などによる教育という観点から、経済的効果につきましては少し長いスパンで考えていきたいと思っています。

このプロジェクトでは、より良い地域をめざして、知多半島の地域づくりについて、引き続き総合的な視点から調査研究を進め、体験型の観光などについて具体的な提言などを行うことができればと考えています。よろしくお願ひ致します。